

令和2年9月1日

出張報告書

津山市議会議員 金田 稔久 

出張日	令和2年8月30日
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 研修会 <input checked="" type="checkbox"/> 各種会議
出張先	兵庫県たつの市 西町自治会館
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	J R姫新線をよくする会 第9回総会・世話人会 ※姫新線をよくする会(姫路市南畝町 1-73)
応対者/講師名	木村磐根代表、西角事務局長
目的	本市と阪神方面と結ばれているJ R姫新線において兵庫県沿線利用者などで2012年結成され、ダイヤ改善や利用促進イベントなどに取り組みされており、活動状況を調査するとともに兵庫・岡山両県沿線における利用促進など協調した取り組みを模索することも含めて参加した。
概要	<p>総会には25名の参加で、議会関係では佐用町議会山本前議長の参加。</p> <p>木村代表からの挨拶では兵庫県内高速化が図られ、5年連続300万人利用が達成されているが、しかしながら姫路～播磨新宮間の増加であり、播磨新宮以西のダイヤや輸送車両、駅設備、駐輪場整備など課題がある。またコロナ禍となり、利用も減少が明らかとなっている。これからの取り組みを模索したい。</p> <p>西角事務局長よりこれまでの取り組みを説明され、7月16日に開催したたつの市長との意見交換会での話が主に報告され、中でも、沿線自治体の観光パンフレットを観光案内所に常時配置する提案をし、了解が得られたので、たつの市と津山市とで交換することをたつの市側から呼びかけるとの話もできたことを披露された。その他佐用以西との乗換時間改善、播磨新宮～佐用間の利用促進、ICOCAの播磨新宮以西の導入、沿線連携、利用促進イベントの実施について今後の取り組みも話された。</p> <p>意見交換では、岡山県側の状況について私から話、作陽高校の通学生は以前は播磨新宮から毎朝通学していたが、佐用での分断ダイヤとなり通学困難となっている。それらの条件も重なり、作陽高校2023年移転となるこ</p>

	<p>とや真庭市太田市長が美作大学の一部学科を真庭市誘致の動静について紹介し、学科誘致により、津山～中国勝山間の利用促進を図れることからの取り組みであることも紹介し、多くの参加者から期待の声が上がった。また、美作市湯郷温泉が沿線での最大の集客地であり、今後湯郷温泉旅館組合との意見交換の場や津山まなびの鉄道館などの施設も活用した取り組みについても話題となった。</p> <p>今後について、姫新線沿線自治体の議員での利用促進サミットなどについて佐用町山本前議長とも連携して見ることも確認した。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>兵庫県側の取り組みについて理解できた。特に兵庫県に対応も知事を先頭に取り組み、沿線の姫路市、たつの市、佐用町の本気度を感じた。沿線住民、利用者も姫新線利用をかなり意識していることは本市にはない取り組みであります。利便性を高めることを担保に利用促進を必ず返すという形が安定的な利用に結びついていると考えます。津山市では姫新線だけでなく、議会でも何度も話題となっている津山線にしても JR に利便性向上をお願いするのみで、自ら行動している取り組みはない。様々な取り組みを実施して兵庫県側の高速化事業や増便事業が成功しているので、津山市における公共交通政策を改め、生活の基盤であり、観光客誘客である鉄道・バス事業者とその場しのぎの対応ではなく、しっかりとした取り組みをすべきであると感じた。また、それらの取り組みを進めて行くためには沿線自治体と共有していかなければならないので、沿線自治体の理解ある議員各位と勉強会などを計画したいと考えている。</p> <p>いずれにしても「人」がいなければ、いくら良いことを言っても成果は上がらない。人口減少に歯止めをかけて、人々が集う、暮らすまちづくりを引き続き全力で取り組む決意をした。</p>

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。

工殿

2020年7月吉日

JR姫新線をよくする会

代表 木村馨根

第9回「JR姫新線をよくする会」総会の御案内について

盛夏の候、コロナ禍の中で皆様方におかれましては、ご健勝のことと存じます。

JR姫新線の令和元年度の年間利用者数は、コロナ感染防止対策として外出自粛や休校等がありましたが、昨年と同じ322万人と増加傾向にありました。

私たち「JR姫新線をよくする会」は、JR利用者の立場になって、たつの市長との対話集会を開催し、列車の増発・増結、駅設備の改善、利用補助金などについて要望し、意見交換を行ってきました。また、岡山県側議員との意見交換も始めました。今後とも、「JR姫新線をよくする会」への取り組みに御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

つきましては、第9回「JR姫新線をよくする会」総会を下記の通り開催しますので、会員様方の御参加をよろしくお願い致します。

記

日時 8月30日(日) 午後4時より

場所 西町自治会館 (播磨新宮駅南口より徒歩2分)

【開催にあたってはコロナ感染防止対策を実施し、懇親会については中止します】

JR姫新線をよくする会

☎670-0961 姫路市南畝町1-73

☎ 079-284-7090

第9回JR姫新線をよくする会定期総会

日 時 2020年8月30日(日)

午後4時～

場 所 西町自治会館

参加者 25名
利用者 利用者
交通政策基本法

1. 開会あいさつ

2. 代表あいさつ 木村代表

利用者=学生

3. 取り組みの経過 西町自治会館

4. 今後の取り組みについて

5. 意見交換

- 佐用での乗換
- 播磨新宮～佐用 利用促進
- 仁力の拡大
- 地域、沿線の連携

6. 閉会あいさつ

イベント ハイパー
駅並ハイパー

(参考様式2)

令和2年10月13日

出張報告書

津山市議会議員

金田 稔久

出張日	令和2年10月11日(曜日)
種別	<input type="checkbox"/> 調査研究・視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input checked="" type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 各種会議
出張先	新見市西方 新見公立大学
調査研究項目 要請・陳情項目 研修会・会議名	新見公立大学開学40周年記念講演会
応対者/講師名	①国立がんセンター名誉総長 垣添忠生先生 ②日本総合研究所主席研究員 藻谷浩介先生
目的	①がん患者がどのように社会生活に復帰して行くか。その課題とはなにか。 ②新型コロナウイルスの終息の目途が見えない中で、この課題にどう向き合うべきか。コロナに対する聴講は初めてであり、興味を持った。
概要	①国立がんセンター総長の経歴の中で、「がん」という病の本質についてお話が合った。自らその研究に研究を捧げられた中、夫人のがん、また自らも発症され、人生観が変わられたことを踏まえてのお話であった。 日本におけるがんの原因、がん検診率は低く、特に女性特有の検診の子宮頸がん検診はoecdの中でも特に低い。アメリカ82.6%、日本23.7%。日本におけるがん検診は50%が目標となっている。 そういう環境の中ということもあり、がんと診断されてからのケアについて議論が積極的でない。最近になって患者本人告知も進んできたが、患者の病気への受入方、人の心の強さ・弱さ、その後の家族の生き方などフォロー、サポートの必要性。「人らしく生きる」ことをどう作っていくのか。がん患者からは社会的差別が大きく感じたとの声も多くある。 自らも患者となって、また夫人もがんで亡くし、病の研究に取り組んできたが、サポートの重要性を理解してもらいたい。そこが「がんと共に生きる社会」へと繋がる。 ②コロナ感染症について様々な報道によって国民はその情報を知りえている。正しい現状把握がされているのか。明かにされているのは「率」が多い。絶対数を知ること、

	<p>データを確認してそこから様々な取り組みをスタートすることが重要である。現段階では40歳代以下の人は感染による死亡事例がない。</p> <p>コロナ第3波が来るのか。過去3か月冬だったシドニー、ニュージーランドは、第3波はなかった。冬だからあるというのではないと考えられる。感染症を抑え込むには移動制限。移動、活発な活動から拡大されていると考える。何事も<u>正しい情報と分析が必要である。</u></p> <p>首都圏や大都市での発生拡大を例としてコロナ後は地方で暮らすが進む。リモート勤務、人事評価も変わる。価値観がずいぶん変わるということはそのニーズを地方が受け入れる体制をどう作っていくのか。まずは通信網の整備は必須である。その受け入れ体制を整えることが重要である。また、都市部でこれだけ制約のある暮らしとなると東京の大学という考えがなくなる。リモート授業も進み、立地がどこであれ魅力ある学校が注目される時代となった。地方の時代を気付かせたこととなった。</p> <p>コロナ感染症をどう受け止めてこれからの生きる社会を作っていくための考えを改めて生きていかなければならない。</p>
<p>得られた成果 市政への反映点 今後の課題点 など</p>	<p>【所見】</p> <p>①行政施策ではがん予防、早期発見の検診に取り組んでいるが、患者へのサポートについてはほぼ取り組んでいない。医療施設においてケアする意味で拠点病院では取り組んでいると側聞している。病へのケア、社会生活への復帰ケア、家族ケアなどについても末端行政である市町村が主体的に取り組む必要がある。津山市においても津山中央病院ががん拠点病院であるが、それ以外の医療施設でがん治療をされている市民も多くおられることもあり、がん拠点病院だけに任せるのではなく、こども保健部が主体的に取り組むべきではないか。この取り組みについて議会活動として取り組んで行きたい。</p> <p>②コロナ感染症の状況分析することを指摘された。また、コロナ感染症による働き方が変わる中で、どこに住んでいても超高速通信網による情報網のサポートが「生命線」と考える。アフターコロナを見据えて、情報通信体制の整備が道路網の整備よりも最優先課題となっている。そういった環境を踏まえて、津山市においてネット環境が充実していない地域が多くある。その解消と充実を早急に取り組むことが市政の最重点施策として政策実施に力を注ぎたい。</p>

※欄が不足する場合は、別紙で添付してください。



人と地域をつくる **新見公立大学**

開学40周年記念講演会



記念講演1 国立がんセンター名誉総長
垣添 忠生 先生

がんと共に生きる社会

記念講演2 日本総合研究所主席研究員
藻谷 浩介 先生

コロナと共に生きる社会

日時 2020年10月11日(日)午後1時30分～午後4時30分

会場 新見公立大学 地域共生推進センター棟 講堂